



アカアマダイの採卵・種苗生産実施中！

～ 今年の採卵と種苗生産の状況 ～

島根県水産技術センターでは、県栽培漁業基本計画に基づいて平成 18 年度からアカアマダイの種苗生産技術開発に取り組んでいます。今年度も 9 月 27・28 日の 2 日間、JF しまね平田支所、平田支所管内の一本釣りや延縄漁業者の皆さま、および出雲市のご協力をいただいて親魚の確保を行い、得られた受精卵を用いて種苗生産を行っています。種苗生産を開始してからすでに 1 ヶ月半が経過しましたので、これまでの結果の概要を報告します。

採卵と種苗生産の概要

漁獲されたアカアマダイの親魚は活魚トラックで水産技術センター内水面浅海部浅海グループに輸送し、産卵を促すためのホルモン剤を接種したのち個体識別をするために区割りした活魚ケースに入れて採卵を待ちます(写真 1)。本種はマダイやヒラメのように自然産卵させることができないため、卵をしぼり出し(写真 2)雄の精子をかけて人工受精します。しかしながら一般的に知られている鮭のように精子をしぼり出すことができないので、成熟した雄の精巣を取り出して精巣内と同じ成分の液(人工精漿せいじょうといい、この中で精子は休眠状態となり



写真 1 区割りした活魚ケース内で採卵を待つアカアマダイ親魚

ます)の中に精巣を細かく刻んで入れ、精子の元となる細胞を溶かし出します。この液に海水を入れると精子が活性化しますので、これをしぼり出した卵にかけて受精させます。受精卵は 1 日で胚体が形成されますが、この時にウイルス病等の予防のためオゾンを含んだ海水で洗浄します。さらに 1 日経つとふ化します(写真 3)。



写真 2 採卵の様子

その後は通気量、注水量、クロレラ等の添加、照度、餌の種類や量、タイミングなど様々な飼育管理を行いながら仔稚魚の飼育を行います。詳細は種苗生産期間終了後の 12 月以降に再度「とびっくす」の誌面でお知らせしたいと思います。



写真3 ふ化直前の卵（直径約1mm）



写真4 餌に集まるアカアマダイ稚魚

これまでの状況

得られたふ化仔魚 30 万尾から飼育試験を開始し、ふ化後 30 日目には約 18 万尾生き残っていると推定されました。現在（ふ化後およそ 45 日目）は、大きいものでは全長 20mm、平均では 13mm 程度まで成長し、この大きさになると遊泳力が増して飼育数の推定が困難となるのですが、7～8 万尾程度が生き残っていると推察されています。餌の配合飼料を撒くと集まって争うように餌を突つく様になりやっとならしくなってきました（写真 4）。

付記

採卵に使用したアカアマダイの一部が「宍道湖自然館ゴビウス」で飼育されています（写真 5）。アカアマダイは泳ぎがとても優雅な魚ですが、深い海に生息していることもあって生きたまま入手することが難しく、水族館で展示されることはあまりありません。しかし今ならとても珍しい生きたアカアマダイを見ることができますので、ぜひ一度「ゴビウス」でご覧になってはいかがでしょうか。



写真5 「ゴビウス」で飼育中のアカアマダイ

島根県水産技術センター 島根県浜田市瀬戸ヶ島町 25-1

TEL:(0855)22-1720 FAX:(0855)23-2079

ホームページ: <http://www.pref.shimane.lg.jp/suigi/>

E-mail: suigi@pref.shimane.lg.jp